

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アプリ児童デイサービス上福岡		
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日	～	令和7年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	令和7年1月21日	～	令和7年1月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域に根付いた活動 (例) ・支援級のお子様を多く受け入れており、複数の学校からお問い合わせいただくことが可能です。 ・地域行事に積極的に参加させていただいています。(市内のお祭り、福祉イベント等)	近隣の支援級のお子様を多く受け入れることで、違う学校でも関わりを増やしていけるよう、職員が間に入りながら、積極的なコミュニケーションを支援しています。 地域のイベントでは、受付や制作を担当して、「アプリ」として活動していることを知っていただけるようにしています。	職員の研修等を強化し、お友達同士が自然に、また円滑にコミュニケーションが取れるようより良い支援を行っていきます。 地域イベントに積極的に参加し、活動内容や放課後等デイサービスじたいを知っていただけるようにしたいです。
2	他校のお子様同士で関わる時間の確保 (例) ・1日に5～6校ほどのお子様が施設に集まるため、自然に違う学校であっても関わりが増えています。	初めのうちは、他者との関わり方に戸惑うお子様も比較的にいるため、職員が間をとり持つことで、共通の話題などを通して距離を縮められるようにしています。	全体的に会話コミュニケーション等は日常的に行えています。今後はみんなで協力して何かを達成するという目標設定をし、活動の中でしっかり達成感を味わうことができるように支援したいと思います。
3	本人主体での日常生活の支援 (例) ・「やる、やらない」は可能な限り本人に決めていただくようにしています。 ・強制するような形での取り組みは行わないように気を配っています。	本人で判断できる場合は会話を通して、判断が難しい場合は、選択肢をいくつか示すことで、可能な限り自分で選択できるよう支援をしています。	今後は「やる、やらない」の中で、「やらない」を選択したとき、どうすればやる気になれるのか？どうすればできるか？を考えたり、よく観察したりしながら、代替案なども提案することで、様々なことに積極的に取り組めるように支援してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援級と支援学校からたくさんのお子様にご利用いただいております。その中で、「支援級」向け、「支援学校」向けのようにそれぞれのサービス提供はなかなか困難なこととなっています。場合によっては、難しい内容に取り組んでいただいている時もございます。	広い範囲で受け入れさせていただいており、支援級も支援学校も同じスケジュールの中でサービス提供をさせていただいているためと思っています。	完全な個別支援とするには難しい状況ではありますが、一層お友達一人一人に寄り添って支援できる機会を増やしていきたいと考えています。
2	複数の学校にお迎えに行くため、事業所に揃う時間が異なり、活動スケジュールの統一が難しい時もあります。	複数の学校にお迎えに行っていることで、1校単独でお迎えを完了することは稀となります。	安全にすみやかな送迎ができるよう、日々の調整をしっかりと準備していきたいと思っています。
3	専門的に支援できる体制にしていきたいと考えています。	職員はほぼ児童指導員ですが、より専門的な支援が行えるよう将来的には保育士や理学療法士、作業療法士等の資格者を整えていけるようにしたいと思います。	事業所での研修や個々で学べるようにし、より一人一人のお友達に合った支援ができるようサービスの向上に努めていきたいと思っています。